

【佳作】

自分を曲げず

稲垣 花音（愛知県 愛知県立太白高等学校 1年生）

「今まで、自分を曲げずに生きてきてよかった」そう言える人生を羨ましいと思う。

人生の中では、絶対に、進む道を決めなければいけない分岐点が無数にあると思う。それが、大きなことでも小さなことでも。たまに、「あの子がこうするから私もこうする」「私も〇〇ちゃんと同じにしようかな」なんて言葉を耳にする。誰についていくかというのも、人生の選択肢の内の一つであるし、その人次第な訳だが、これは一つの、自分の考えを曲げる行為、それ以前に、考えることを阻止する行為にならないだろうか。「自分が」何をしたいか、どうしたいかというのを大切にしなければ、「自分の人生」はどんな曲がっていつてしまうように思う。それが、きっと、「後悔」になる。

ただ、もちろん、自分の人生を曲げたくなくても、迷うことだってある。私は、将来のことに今少し、迷いと不安を持っている。

「将来なりたいもの」私は、小さい頃は、コロコロとよく変わってはいしたが、夢を多く、そしてしっかりと抱いていた。それでも、成長するにつれてそれは少し曖昧になった。おそらくそれは、年を重ねて、将来の生活のこと、社会状況、収入など、色々なこと

を考えられるようになったという影響が強いのだと思う。こうして先を見据えて将来の仕事を考えるのはとても大切なことだ。ただ正直、先を見据えなければならぬのはやっかいなことだ。将来どうしたいかが揺らいでしまう。自分のやりたかったことを諦めてしまうこともある。自分が望んだ人生を曲げてしまうこともある。大学に行って、資格をとれば、ある程度安定した収入を得られるであろう仕事と、自分の得意や好きを生かせる、自分が一番やりたい仕事と、2つで私が揺らいてしまうように。収入の安定が保証される訳ではなく、ごく一部の人が輝ける仕事。それは、将来の道としてとても不安だ。それなら、少しは安定した仕事の方が安心だ。ただ、一番やりたかったことを諦めるというのは、あまり心が晴れるものではない。やはりこれだつて、諦めるときつと後悔する。「自分を曲げる」というのは、それほど大きな問題で、選択肢があるうちで、必ずといっていいほどつきまとう、最もやっかいで選びたくない問題だ。

だが、選択を見誤ること、間違えることはいけないことではない。これも、本からもらったメッセージだ。「人生は、間違えられるからこそ、素晴らしい」この言葉に、私は、希望と、救いと、少し胸がしめつけられるような感じがした。人はみんな、間違えないように、間違えないようにするものじゃないかと思う。慎重になるのは良いことだ。でも、間違えたつて、そこから得るものはたくさんある。きつとそれを、次につなげていけばいいのだ。「間違えてもいいから、自分を曲げずに生きていこう」と言うのと、少し気持ちが軽くなるように思えないだろうか。自分の思いを貫くというのは少しリスクを抱えることもあるかもしれない。私の将来のことだつてそうだ。けれど、挑戦してみるの間違いいではない。挑戦して、間違えても、挑戦しないより、心がいくら

か軽くなるのではないだろうか。きっと心がからりと晴れるのではないだろうか。

一度きりの人生だ。その一度きりを、間違いをおそれてなにもしないのは絶対にもつたいない。なにもしないで、間違えないように慎重に歩き、自分を曲げてしまう方が後悔は大きいはずだ。一度きりの人生だからこそ、道のりの長い人生だからこそ、自分の本当の思いを大切に生きたい。

書名…ザーツと降って、からりと晴れて

著者…秦 建日子